

ボス・新顔

New Boss

率先垂範  
三木伸一氏

(桂スチール社長)



▼今年10月1日付で、常務取締役から社長に昇格した。前社長の三木桂吾取締役名誉会長の長男で「5年前から、父は数年後に社長交代すると言っていた。新型コロナ感染拡大もあって、その時期が延びた。昨年、父から来年12月に数えて80歳になるので、社長業は今期限りと言われ、就任を覚悟した」と経緯を語ったうえで「桂スチールはビルトH形鋼（BH）の

す。このため、工場の自動化・効率化を加速させるとともに、IoTの導入やシステム化も進める。「前社長はBH製作、切断・穴明け・開先の1次加工において、最新鋭設備を設置するとともに、必要であれば、工場の新設なども行ってきた。今後も生産性の維持・向上を図っていくには最新

製作では日本一の会社。スタッフには恵まれているので、チームワークを大事にし、さらに企業を発展させていきたい」と抱負。

▼現在、主力のBH製作量は直近で月間6千〜7千ト。「国内の鉄骨需要は長期的には2021年度実績の年間466万トを下回り、BH自体も減る方向だ。BH製作が月間4千トでも利益を出せる企業体制を構築していく」と話

月4000トでも利益確保できる体制に  
自動化・効率化を推進

鋭の自動化設備の導入は必要で、前社長の路線を継承していく。営業は同業他社が対応しづらいBHの長尺物・大型物・異形物などの受注を積極的に行い、鉄骨ファブリケーターに寄り添っていく。「我々はHグレードを筆頭に、ファブの方々があるから、存在する。今後もしっかりと手助

けをしていきたい」との思いだ。  
▼人材育成にも注力していく。現在、社員は約180人だが、さらなる少子高齢化に備え、新卒採用、外国人技能実習生の活用も引き続き、積極的に行っていく。工場現場では多能工化を推進し、1人ひとりの作業員の能力も引き上げていく。来年、業務管理の新システムを導入し、管理業務の効率化・迅速化につなげる一方で、管理技術の向上も目指す。「全社員がレベルアップし、企業としても高見を目指していく」と業界トップ企業の舵取りを行っていく。  
▼1992年に芦屋大学経営教育学部を卒業し、阪和興業入社、大阪本社厚板営業部に配属。95年桂スチールに入社し、当初は工場BH製作を体験し、その後は営業畑を歩む。2015年東京営業所所長、16年常務取締役。業界団体では16年に全国ビルトH工業会の運営委員長、21年市況対策委員長。趣味は散歩とゴルフで、お酒も会話をしながら楽しむ。父親の桂吾氏を敬愛し、率先垂範を心掛けていく。1970年2月生まれ。52歳、兵庫県出身。  
(天)

桂スチール  
三木伸一常務が社長、三木桂吾社長が名誉会長に  
桂スチール（兵庫県姫路市）は10月1日付で、三木桂吾社長が取締役名誉会長に就任、三木伸一常務取締役が代表取締役社長に昇格した。三木啓介専務取締役は取締役会長に就任した。